

指導者ネットワークの構築

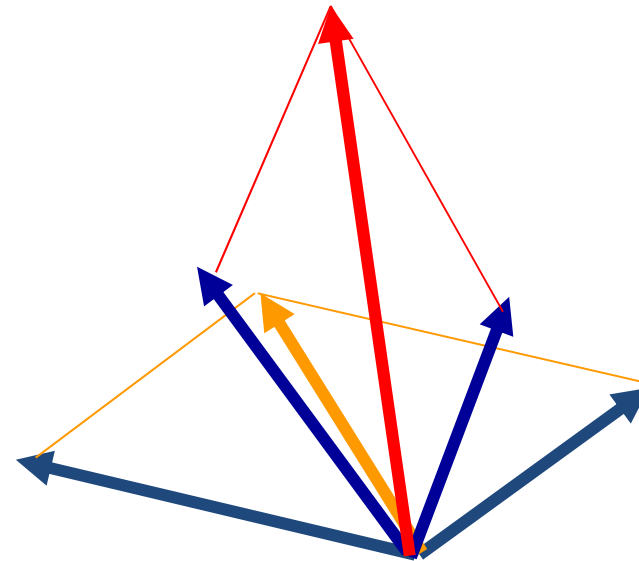
ベクトルの共有 皆で日本サッカーを発展させる

スカラー

$$2 + 2 = 4$$

$$4 + 4 = 8$$

ベクトル



「ベクトルを合わせる」
同じビジョンで同じ方向性で力を結集

第8回フットボールカンファレンス



サッカー協会の経験と今後の取り組み

これまでの歴史を尊重しながら、更なる発展のために「KAIZEN」プロジェクトを立ち上げ4つの柱で具体策を作成している。
以下はその資料の一部です。

指導者資格制度

JFAのさらなる取り組み 指導者養成の“KAIZEN”

□ ライセンス講習会

- ・ 講習会期間、受講条件、受講前・間・後の課題設定
- ・ 受講者の年齢・指導経験等の変化によるテーマ等の改善
- ・ 新ライセンス設置の必要性検討
- ・ インストラクターの伝え方・伝える内容・ボリュームの見直し

□ ライセンスを超えたサポート

- ・ リフレッシュ研修会の内容改善、受講しやすい環境整備(時期など)
- ・ 指導実践型リフレッシュ研修ができる環境整備
- ・ インストラクターの確保と資質向上のための研修会実施
- ・ 学び続ける環境(サポート)

□ 指導者を取り巻く社会環境

- ・ 日本のライフスタイルに合った学習環境整備
- ・ 学習の場の確保(拠点整備)
- ・ 育成指導者の地位向上
- ・ 人材活用

□ リサーチと発展

- ・ 日本の指導者養成における現状把握、課題抽出
- ・ 諸外国の制度・施策・活動のリサーチ

改善のポイント

1. サッカー理解
2. スペシャリストを伸ばす環境づくり
3. 豊かな人間教育
4. インストラクター質向上
5. 指導者の地位向上・人材活用
6. 海外戦略

【指導者養成歴史】

ベースの質・量の確保の
取り組みを早期から

- 1970年 FIFA第一回コーチングスクール
- 1971年 公認リーダー
- 1986年 日本体育協会「社会体育指導者の資格付与制度」
- 1991年 公認準指導員（現C級）
- 1992年 S級（1993年よりプロリーグ開幕）
- 1994年 公認準指導員5か年計画9,000人
- 1996年 S級の充実 寄附講座
- 1997年 公認少年・少女サッカー指導員（現D級）
- 1998年 インストラクター制度 講習数増のベース
- 2003年 指導者登録制度開始
キッズリーダー養成
- 2006年 U-12年代の専門性 A級U-12
- 2011年- KAIZEN

指導者資格制度

普及・育成こそが屋台骨！

JFAの経験

早期より、グラスルーツ、U-12を指導する指導者の充実を

1994- 公認準指導員9000人養成5か年計画(現C級)

1997- 公認少年少女指導員養成(現D級)

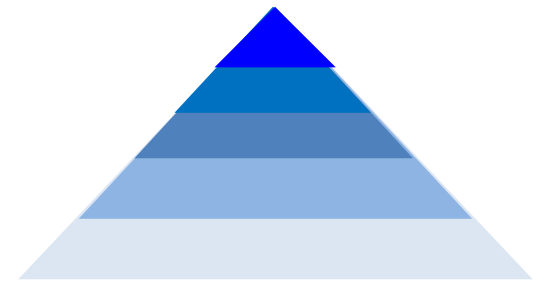
→ お父さんコーチ等東の間の関わりも歓迎、サポート

2000- インストラクター制度

→ コース数の確保

土台の充実、そこが選手達、そして
上を目指す指導者の源

サッカーをあらゆる形で支える土台となる



指導者資格制度

普及・育成こそが屋台骨！

JFAの経験

量の充実のための鍵

コース数の確保＝インストラクター制度

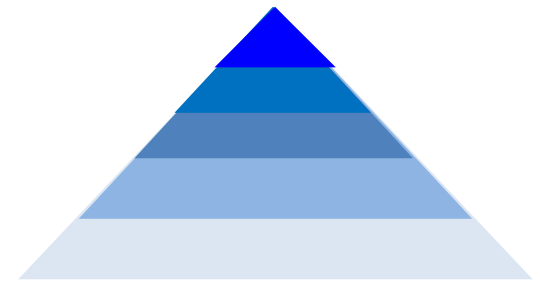
47FAチーフインストラクター	約100名
47FAインストラクター	約600名

C級・D級講習

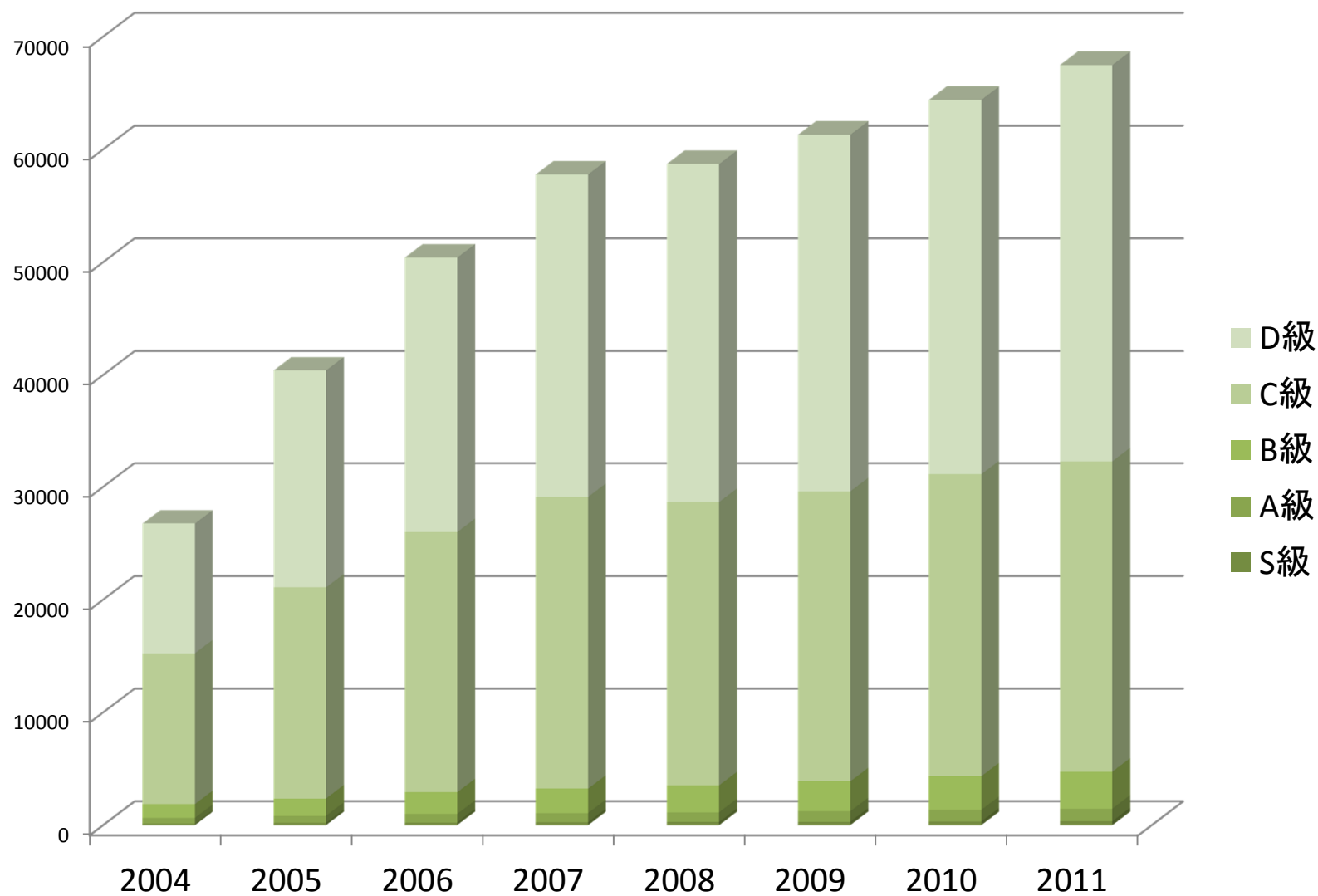
C級リフレッシュ講習 担当

その他各FAへの有力な情報ネットワーク

として機能



登録指導者数（登録制度2004以降）



指導者登録数（2013年1月現在）

S級コーチ

366

A級コーチ（A級U-12含む）

1172

B級コーチ

3484

C級コーチ

27355

D級コーチ

37685

キッズリーダー（任意登録）

958

TOTAL

71020

指導者資格制度

海外の事例

上位ライセンス人数比

	人数			比		
	B	A	S	B	A	S
イングランド	1759	895	115	15.3	7.8	1
フランス	15000	2400	188	79.8	12.8	1
ドイツ	28400	5500	1070	26.5	5.1	1
イタリア	27430	1298	512	53.6	2.5	1
スペイン	9135	12720	2140	4.3	5.9	1
日本	2667	919	304	8.8	3.0	1

UEFA Coaching Convention data2008を参考

指導者資格制度

普及・育成こそが屋台骨！

JFAのさらなる取り組み

登録制度 → 登録者への情報提供
リフレッシュ研修の充実
専門性へのアプローチ
 ゴールキーパー、フットサル、
 U-12、キッズ、 …

小学校体育教員サポート

指導者の地位向上
育成指導者の価値評価

指導者資格制度

リフレッシュ研修の重要性

学び続ける姿勢

指導者にとって重要な精神

指導者登録制度

C級以上は、4年毎に更新 一定ポイントの取得
S級 2年毎

リフレッシュ研修の質・量の充実を図る
(伝えたい発信とニーズ)

その他情報提供し続けることができる
登録指導者への情報のつながりができる

指導者資格制度

ライセンス保有義務の方向性

子どもたちが指導を受ける環境の改善

勉強をした指導者、し続ける指導者をいきわたらせるために

現在

JFA U-12 D級
プロ S級

その他各種別・連盟が自主的に義務化

クラブユース連盟 → 加盟5年以内にC級

国体監督

JFL A級

なでしこリーグ

プロクラブ育成組織ダイレクター A級 等

今後の主要な取り組み

「モデル地区トレセン」の考え方

全国で、生活圏内日常的なトレセン的活動(週1~2回)

A級U-12取得者の中から、認定して指導者を出していく

「地区トレセン」の内容、質、方向性に直接JFAが働きかけ

「モデル地区トレセン」数目標

2008年	5
2009年	10
2012年	50
2015年	150
↓	
最終形	300

事例1:ドイツ

全国121箇所⇒395箇所
(70クラブに1拠点)

事例2:フランス

全国に650のセクター

参考:4種登録チーム数 現在 8511
300で28クラブに1箇所

指導者資格制度

ライセンス保有義務の方向性

子どもたちが指導を受ける環境の改善

勉強をした指導者、し続ける指導者をいきわたらせるために

1. 登録全チームに1名以上の有資格指導者を

※ただし、受けやすさ等の配慮(部活動顧問等)

3年以内目標

 受講機会の増大、特別講習の実施等

指導者資格制度

ライセンス保有義務の方向性

子どもたちが指導を受ける環境の改善

勉強をした指導者、し続ける指導者をいきわたらせるために
適正人数での指導を受けられるために

2. 登録チームを指導する全指導者は資格を持つ
3. 適正人数(25-30人)に1人の指導者になるようにする

※ただし、受けやすさ等の配慮(部活動顧問等)
新ライセンス設置の検討

5年以内目標



受講機会の増大、特別講習の実施等
新ライセンス、受けやすさ含め検討

指導者の地位向上 育成指導者の価値評価

育成指導者の露出

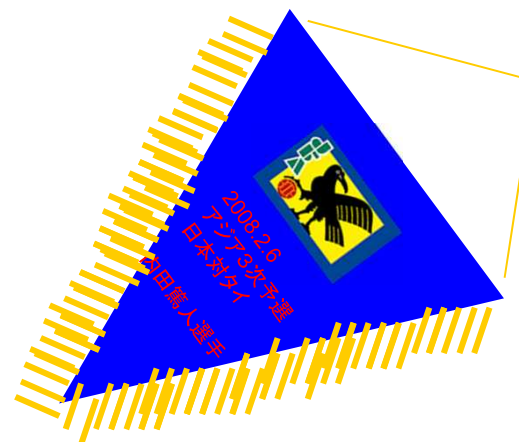
日本代表戦のプログラムに、育成年代からのチーム所属履歴を掲出
プロクラブも準じるクラブ多数

ブルーペナント

代表選手の育成に、育成年代の各段階でたずさわった指導者に、記念品としてブルーペナントを贈呈する。

参考： イングランドのキャップの例

※ 2002年に実施歴あり(代表試合への招待)



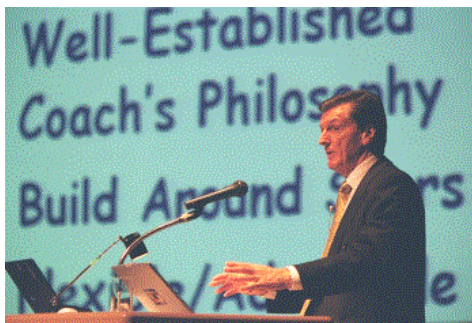
育成のサッカーのフィロソフィー



「今日の結果ではなく、
子どもが明日どんなプレーをするかを
楽しみに指導をすること」

イビチャ・オシム(元日本代表監督)

育成のサッカーのフィロソフィー



「指導者は選手の未来に触れている」

アンディ・ロクスブルク
(UEFAテクニカルダイレクター)